

平成28年3月吉日

関係各位 殿

岡山大学大学院自然科学研究科長
田中 秀樹

テニユア・トラック教員の公募について（依頼）

拝啓 時下ますます御清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、このたび本研究科におきましては、下記の要領により、テニユア・トラック教員を公募することになりました。つきましては、貴機関の関係者への周知方よろしく御願ひ申し上げます。

敬具

記

1. 公募人員 助教：1名（テニユア・トラック期間：岡山大学着任時から5年間）
2. 所 属 大学院自然科学研究科応用化学専攻
応用化学講座 粒子・流体プロセス工学教育研究分野
（学部では工学部化学生命系学科）
3. 専門分野 化学工学に基盤を置いた粒子・流体プロセス工学あるいは粉体工学，エアロゾル工学，コロイド工学，混相流工学に関連する分野
4. 教 育 学部教育において、物理化学や化学工学に関する専門科目および実験科目を担当できること。その他、教養教育科目や学部、大学院の専門教育科目も担当して頂くことがあります。
5. 応募資格 （1）博士の学位を有するか、着任時まで取得見込みであること
（2）教育ならびに研究に意欲的であること
（3）学部および大学院での教育・研究指導が可能であること
6. 採用時期 平成28年9月1日以降のできるだけ早い時期
7. テニユア付与について
テニユア・トラック期間満了日の6月前までに行う審査の結果、別紙1および別紙2のテニユア審査基準を満たしている場合は、テニユア・トラック期間満了日の翌日から任期の定めのない教員として採用します。
8. 提出書類 ①履歴書（本研究科所定様式1，顔写真を添付，写真裏面に氏名を記入）
②学会および社会における活動（様式2）
③教育に関する経歴書（様式3）
④研究業績概要書（様式4）

- ⑤研究業績目録（様式 5，各種外部資金獲得状況は最近 10 年以内）
- ⑥論文・著書等別刷（主要なもの 5 編以内，コピー可）
- ⑦着任後の研究計画（A4 用紙，様式自由，2 枚以内）
- ⑧教育に対する抱負（A4 用紙，様式自由，1 枚以内）
- ⑨応募者についての照会先 2 名の方の連絡先
- ⑩選考の参考となる資料（任意）

様式 1～5 は，次の岡山大学大学院自然科学研究科ホームページからダウンロードしてご使用下さい。http://www.gnst.okayama-u.ac.jp/other/koubo_index.html

なお，お送り頂いた書類は選考にのみ使用し，返却は致しません。選考終了後，当方にて処分致しますので，ご了承ください。

9. 応募締切 平成 28 年 5 月 13 日（金）必着

10. 応募書類提出先・問い合わせ先

〒700-8530 岡山市北区津島中三丁目 1 番 1 号

岡山大学大学院自然科学研究科応用化学専攻

応用化学講座教員選考委員会

委員長 後藤 邦彰

(TEL/FAX: 086-251-8084, e-mail: gotoh@okayama-u.ac.jp)

11. 注意事項
- (1) 応募書類は簡易書留とし，表書きに「応用化学講座教員（助教）応募書類在中」と朱書き願います。
 - (2) 面接を行うことがあります（但し，旅費等は応募者の自己負担）
 - (3) 適任者がいないと判断された場合には，再公募を行うことがあります。
 - (4) 給与は年俸制が適用されます。詳細については以下の URL にてご確認下さい。

http://www.gnst.okayama-u.ac.jp/other/koubo_index.html

付記：岡山大学では，男女共同参画を推進し，女性教員をサポートしています。女性の積極的な応募を歓迎します。

以上

(別紙1)

大学院自然科学研究科教員(助教)のテニユア審査基準

平成27年6月17日専攻長会議承認

「岡山大学大学院自然科学研究科におけるテニユア・トラック制実施内規」(以下「実施内規」という)第8条の規定に基づき、テニユア審査の基準について、必要な事項を定める。

- 1 テニユア・トラック制を導入している専攻または講座共通の事項
テニユア審査は、以下の観点で審査する。
 - (1) 教育活動
講義や実験・実習の担当、学生指導上の実績及び教員としての資質等を評価する。
 - (2) 研究活動
著書、論文、学会活動、受賞・各種研究費獲得などの観点で評価する。
 - (3) 社会活動
社会貢献(国際貢献や公開講座など)の観点から評価する。
 - (4) 管理運営
管理運営上での貢献(全学、研究科、専攻、講座)で評価する。
- 2 その他の留意事項
 - (1) テニユア審査にあたっては、教員の活動評価結果を参考にすることができる。審査対象期間中の教員の活動評価結果が、各評価実施単位で定める最低基準を超えていること。
 - (2) このテニユア審査基準に定めるもののほか、テニユア審査の実施に必要な基準は、テニユア制を導入している専攻または講座単位で別に定める。
 - (3) テニユア審査基準は、実施内規第8条の規定に基づき、公募要項にて公表しなければならない。

以上

(別紙2)

応用化学講座教員（助教）のテニユア審査基準

大学院自然科学研究科教員（助教）の再任審査基準第2の（2）に基づき、応用化学専攻の助教テニユア審査基準を、次のとおり定める。

以下の教育，研究，管理（専攻貢献・教育研究分野貢献）3項目について、全ての必須条件を満たし、かつ、いずれかの項目において顕著と認められる業績・実績を有すること。ただし、必須要件に達しない項目があっても、その他特筆すべき事項がある場合には、審査において考慮される。

【必須要件】

1. 教育活動：

本学科カリキュラムの科目を講義，演習，実験などを担当し，かつ，所属教育研究分野で学生の研究指導，学術論文・学位論文執筆の適切な助言指導を行っている。

2. 研究活動：

採用後4年経過時点で，研究領域が基礎科学分野の場合6報以上，応用科学・工学分野の場合4報以上，主たる貢献をした論文が掲載または掲載決定されている。

3. 管理運営：

専攻の管理・運営に積極的に参画している。教育研究分野の管理・運営を，同分野に所属する他教員と協力して主体的に行っている。